

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

長野県 長野市立松代中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。

平成30年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年11月1日 (木)
- ク ラ ス : 2年1組 (38名)、2年2組 (37名)
- オリンピアン : 新谷 志保美 先生 (スケート・スピードスケート)



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、オリンピックバリューをそれぞれ「エクセレンス＝卓越、優れていること」「フレンドシップ＝友情」「リスペクト＝尊敬」と説明。
- ・準備体操として、簡単なストレッチを行った後、しぼ取り(個人戦・団体戦)を実施。※2組のみ押し相撲・引き相撲を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳びを90秒間×全3回(2組は全2回)実施。引っ掛かったら0から数え直すことをルールとした。
- ・1回目終了後、結果発表を行い、工夫した点を生徒に問い掛けると、「男子と女子の跳ぶ順番を工夫した」「回しての息を合わせた」「縄を回すスピードを速した」等の意見が挙がった。

4. まとめ



- ・冒頭で伝えた「全力で取り組む」「クラスの仲間の皆と協力して取り組む」「話をよく聞き、ルールを守る」の3つの約束事を振り返り、この3つがオリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)とどのように結び付いているのかを次の座学の時間に伝えていくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・「スピードスケートの経験があるか」と生徒に尋ね、スピードスケートは氷上のF1と呼ばれる競技であり、時速60kmを超えることもあると説明。バンクーバー大会で着用したウェアを見せた後、3つのオリンピックバリューについて話したいと授業の目的を確認。
- ・新谷先生の競技生活を振り返りながらオリンピックバリューを説明。エクセレンス：「卓越」「全力」「諦めない」「ベストを尽くす」、フレンドシップ：「友情」「協力」「チームワーク」「仲間」、リスペクト：「敬意/尊重」「ルールを守る」「思いやり」「感謝」

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間に感じた3つのオリンピックバリューについて考えてみよう。運動の時間に感じたことの中から、どんなことがどれに当てはまるのか。
- 発表：回す人を変える、全力で走る、諦めない、最後まで頑張った(エクセレンス)、皆で声を掛け合う、班で協力した、仲間のミスを皆でカバーした(フレンドシップ)、嘘をつかないで報告した、ルールの範囲内で自分たちができていることを考えた、相手に感謝(リスペクト)

4. まとめ



- ・クーベルタンは「オリンピックは参加することに意義がある」と唱え、「人生とは成功することではなく努力することに意味がある」と続けた。
- ・中学生の頃、部活のほかにスピードスケートに取り組んでいたため、朝から晩まで慌ただしい毎日を送っていたが努力し続けたからこそオリンピック出場という夢を実現することができた。
- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にも見出すことができる。今後の生活でもオリンピック教室で学んだことを思い出し、自分を支えてくれる周りの人達に感謝しながら、夢の実現に向けて歩いて行ってほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日：平成30年11月2日（金）
- ク ラ ス：2年3組（37名）、2年4組（37名）
- オリンピアン：永田 睦子 先生（バスケットボール）



■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、授業の約束事として「一生懸命、全力で取り組むこと」「協力すること」「ルールを守ること」の3つを約束事とした。
- ・準備体操として、タッチ鬼(60秒×全2回)、バスケットボールの基礎練習(3組はパス回しゲーム)を実施した後、シュート練習を行った。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳びを90秒間×全3回(3組は60秒間×全3回)を実施。引っ掛かっても続きから数えることをルールとして制限時間内に跳べた回数を、3チームごとに競い合った。
- ・全員跳びを全3回(3組は全5回)を実施。



4. まとめ



- ・4組では、皆が率先して声を出していたことを称え、3組では、冒頭で説明した3つの約束事が守れているか確認したところ多くの生徒の手が挙がった。
- ・座学の時間では、運動の時間に取り組んでもらった内容を中心に振り返りながらオリンピックについて話したいと予告し、授業終了。





■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックのイメージを尋ね、「スポーツの大会」「他の国と競う」等の意見が挙がる。永田先生も最初はそのように思っていたが、オリンピックを通して感じたことを話す授業の目的を伝える。オリンピックシンボルの意味やオリンピックバリューの意味を尋ね、映像を流し当時の心境やルールを説明。
- ・永田先生の競技生活を振り返りながらオリンピックバリューを説明。エクセレンス：「卓越」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ：「思いやり」「仲間」、リスペクト「敬意」「尊敬」「感謝」と説明。

3. グループワーク



- 発問①：運動の時間に感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発問②：自分の生活にオリンピックバリューを当てはめて考えてみよう。
- 発表①：楽しんでプレーが出来るように工夫する、全員で円陣を組んで気合を入れた(エクセレンス)声を掛け合う、意見を出し合う、ミスをして責めない(フレンドシップ)良いところを認める、礼儀を重んじる、仲間を尊重する(リスペクト)
- 発表②：努力する、全力で取り組む、笑う(エクセレンス)絆を深め合う、チームワークを大切にする、協力して生活する(フレンドシップ)家族や先生に感謝、時間を守る、思いやりを持つ(リスペクト)

4. まとめ



- ・皆が出してくれたオリンピックバリューはこの2時間で一番価値があるものだと話す。自分で物事を考えないと変わることができないため、つらい時やどうしていいかわからなくなった時、オリンピックバリューを思い出してほしい。もしかしたら心を救ってくれるヒントがあるかもしれない。
- ・いつ皆を救ってくれる出来事が起こるかわからないため、それを逃すことのないようにこれから毎日一生懸命過ごして欲しいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年1組



2年2組





■ 集合写真
2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

